

# 館報 駒ヶ根

令和5年  
11月14日

vol. 167



■ 撮影者 匿名

## 公募写真テーマ『動く』

■ 今年8月に行われた「中沢の夏まつり」の一コマです。会場には色とりどりの浴衣や甚平を着た大勢の子どもたちが、縁日や打ち上げ花火などの企画を楽しんでいました。

※今号の表紙写真は応募いただいた写真を使用しています。

次号 館報『駒ヶ根』 168号

表紙写真募集  
テーマ『希望』



詳細は申込みフォームをご覧くださいか、各公民館へお問い合わせください。

※申込締切は令和6年1月11日まで

## 伊南で世界を感じるお祭り

毎年秋に開催されている『みなこいワールドフェスタ』をご存じですか？国際協力機構（JICA）駒ヶ根青年海外協力隊訓練所のある駒ヶ根市を中心とした、伊南4市町村の国際交流のお祭りです。

1979年に訓練所が開設されて以降、駒ヶ根市はまちづくりにも繋げていこうと、1993年『こまがね広小路国際広場』を開催、翌年にフェスタ第1回となる『駒ヶ根市協力隊週間』が駒ヶ根青年会議所や商店街、駒ヶ根協力隊を育てる会の共催で開催されました。この活動は伊南地域に広がり、宮田、中川、駒ヶ根、飯島の4市町村の頭文字『みなこい』が名称に冠せられ現在の開催名となっています。

今年、好奇心から実行委員会に参加して、主に有志で構成される委員会メンバーの自発的な企画立案と熱量を感じる活動に感銘を受けました。

現実行委員長・大山崇人さんは2016年に『駒ヶ根協力隊を育てる会』幹事に就いて以降フェスタに関わってきました。前任の坂本委員長の頃から「一般市民が能動的に企画立案・実行」する活動に転換して、コロナ感染症蔓延で自粛期間だった2020年～2022年もオンラインやライブインシアター等工夫を凝らして途切れることなく、今年30回目を迎えました。

大山委員長は「私は調整役。大人だけでなく中・高・大学生にも大勢参加してもらって、皆が楽しく、自主的・能動的なフェスタにしたい」と方針を語ってくださいました。

伊南地域に居ながらにして、海外経験者や外国籍の方との交流、異国文化を多方面から体験できる稀有なお祭りです。実行委員会は誰でも参加でき、自分達で祭りを作り上げていく楽しさと喜びを感じることができます。

今後とも未永く続いていくことを願ってやみません。



実行委員会のひとこま

## 子どもたちが大好き!!「おじいちゃん先生」

駒ヶ根市では、世代間交流事業としてシルバー人材センターへ委託し、5人の「おじいちゃん先生」が市内の幼保育園10箇所ですぐ汗を流しています。仕事内容は、草刈りや園の畑を管理する農作業、扇風機や加湿器といった設備の管理メンテナンス、園舎の家具や建具の修繕補修をする大工仕事など多岐に渡ります。仕事は大変なこともありますが、今まで培った経験や知恵を生かし、元気で多才なおじいちゃんがそれぞれの園で大活躍しています。

そのうちのお一人にお話を伺いました。1年毎の委託で現在5年目とのこと。「猛暑だったこの夏は特に大変だったが、一生懸命頑張っている優しい保育士さん方に刺激を受けながら、何より嘘を言わない正直で元気な園児たちのおかげで続けてこられた」と仰っていました。また、おじいちゃん先生仲間とLINEのグループチャットを活用して、畑の様子を写真で共有したり、種まきの時期などをメールで相談し合ったりする様子が大変印象的でした。

昔は園児たちと一緒に遊ぶ時間もあつたそうですが、近年は作業量が多くなっており、給食やおやつを食べるわずかな時間に交流しているそうです。取材中も「おじいちゃんせんせい!!」と元気のいい声が園舎から聞こえてきて「子どもたちの笑顔が何よりの活力になる」と仰っていました。「おじいちゃん先生の車、かっこいい!」とよく声をかけてくれた園児が、卒園を機に、軽トラックに模して作ったレゴブロックをプレゼントしてくれたそうです。「その事が忘れられない思い出」と嬉しそうに話してくださいました。

園での生活がより豊かなものになるためには、おじいちゃん先生の存在が不可欠だと取材を通じてさらに実感しました。素晴らしい取組みがこれからも続いていくよう、この事業が広く認知され、関心を持つ人が増えることで、地域全体での子育て支援に繋がることを期待します。



畑作業



おじいちゃん先生



分館紹介  
No.2

中沢 中割分館

令和5年9月1日現在 512人  
区加入世帯 164戸

中割分館では、今年度、教養部に女性が初めてを行なっています。会議では、女性の新鮮な発想の中で、恒例となっていた2大行事を4年連続しました。

6月に行われた「歩け歩け大会」では、市教育委員会、村交流広場の公園をめざして歩き始めました。

天気にも恵まれ、往復約4kmの道のりを初めに楽しく歩くことができました。

## 『新宮川岸ファーマーズ』 —共に学ぶ竜東の仲間たち—

現在、駒ヶ根長谷線と伊那生田飯田線が交差する中沢の新宮川岸地区では、リニア中央新幹線工事に伴う発生土を活用した土地改良事業が始まり、発生土25万m<sup>3</sup>を搬入して約6.2haの圃場が整備される。

その圃場の西側の一画、約7,000m<sup>2</sup>には市が直売所等を含む竜東振興の拠点施設を建設する予定で検討が進んでいる。

こうした中、中沢公民館と東伊那公民館の合同学級「新宮川岸ファーマーズ」がスタートした。公民館はもともと、戦後の荒廃した日本を地域から立て直す人材を養成するために設立され、地元青年団が基盤となって教養を高める学習会等を実施していたという。そうした成り立ちを踏まえて、住民自ら“つどい、まなび、むすぶ場”を目指して開講となった。

参加者は現在15名程、農業経営者や地域の将来に関心を持つ竜東地域の住民で働き盛りの40代が多い。これまで3回の学級が開かれ、地域についての現状認識や思い、今後取り組むべき課題等について、率直な意見交換が行われた。また3回目には各地のプロジェクトに関わり、全国の直売所の現状に詳しい榎産直新聞社の毛賀澤明宏氏の話聞いた。

氏によれば、コロナ禍を経て、売り上げを伸ばした直売所と落とした直売所に二極分化しており、客層や客単価、売れ筋商品なども顕著に変化しているとのこと。そうした中で客観的なデータに基づき、運営者と生産者が一緒になって分析・マーケティングをしている直売所が发展しているそうだ。

今後もこうした学習を積み重ね、地域の課題を共有し、お互いの知識や意見を切磋琢磨して、これからの地域づくりに活かすことが目標である。



講習会の様子

## 高鳥谷神社弓子から国体へ

江戸時代正徳2年(1712年)から始まったとされる高鳥谷神社の矢納めの神事は、東伊那区の家を継ぐ男子が一生に一度、弓子として神社の矢場に安置された御神体の前で矢を射つ。

約30年前頃、弓子として初めて弓を触り、それをきっかけに弓道を始めた。2年程したころ、弓道が『国体競技』にあることを知った。「目の前にいる現役の前澤選手を倒せば、国体に行けるぞ」と言われたが、的を外さない化け物みたいな人に勝てるわけがないと思いつつ、的を狙っているのに中らない事が悔しくて、いつの間にかのめり込んでいた。3年後にはあの化け物選手に時々勝てるようになり、国体選手に選抜され42歳で宮城(仙台)国体へデビューすることができた。その後、高知国体、静岡国体と3年連続出場。

単身赴任先での長野運動公園の先生に、弓を始めた動機を聞かれ「中らなくて悔しいから」と返答したら「お前には指導しない」と言われ見放された。その後、国体選手選考された数日後には、遠的射場に生い茂っていた草が刈り取られ、矢取道にゴムマットが敷かれた。その先生が整備をしてくださったと聞き驚きと共に感謝の念を抱いた。その道を仲間は私の名前を取って『山岸ロード』と呼んでくれた。

人との出会いは大切なもので、地元の射会で外菌先生(デビュー以来の長野県成年男子監督)、前澤選手と出会っていなければ国体という世界に入ることは無かったと思います。

令和10年(2028年)に長野県で開催される第82回国民スポーツ大会(旧称:国体)では開催県枠があり、代表選手になる身近なチャンスではないでしょうか。夢舞台での楽しさ・緊張感・怖さの何とも言えない感覚を味わえますよ。

宮城国体弓道競技  
デビュー高知国体弓道競技  
長野

加し、活発に分館活動意見で盛り上がります。に開催することがで

員会から講師をお招き後、中沢公民館から農

風を体に感じながら、

7月の「中割分館スポーツ大会」では、マレットゴルフ大会とワンバウンドふらばーるバレーボール大会が開催されました。農村交流広場で行われたマレットゴルフ大会では、ボールを打つ快音と笑い声があちこちで聞こえ、参加された皆様それぞれ気持ちよさそうでした。ワンバウンドふらばーるバレーボール大会の会場となった中沢小体育館では、選手の皆さんが声を掛け合い、楽しそうに元気いっぱい力強い試合をされていました。

久しぶりに笑顔があふれる素晴らしい大会となりました。また、大会後には慰労会が行われた常会もあり、地域の絆が一層深まったようです。



文化の殿堂 文化会館

駒ヶ根市文化会館 館長 新井克太郎

駒ヶ根市文化会館は、昭和61年7月1日に開館し、今年37年を迎えました。978席の固定席と8席の車椅子スペースに加え、楽屋3部屋と練習室2部屋、リハーサル室を備えた大ホールがあります。

文化会館ができる以前から駒ヶ根市で定期的にクラシック音楽を鑑賞する会員制の「駒ヶ根音楽同好会」があり、例会の度に旧赤穂公民館の平土間の講堂にパイプ椅子を並べ、反響板もない小さな舞台での音楽会を長く開催していましたが、長年の市民要望により「クラシック音楽を主目的とする多目的ホール」というコンセプトのもと、国の「町づくり特別対策事業」の指定を受け、全国的にも数少ない文化会館、勤労青少年ホーム、働く婦人の家、図書館、博物館の5館からなる複合施設「駒ヶ根総合文化センター」として建設されました。

駒ヶ根総合文化センターの施設の一つ、駒ヶ根市文化会館大ホールで演奏するクラシック音楽のアーティストから「コンパクトで響きの良いホールだ。」



音響反射板設置舞台

東京にもこんなホールが欲しい」と、非常に評判が良く、レコーディングにも利用されているほか、地元文化団体の発表会や各種の大会・式典にも数多く利用されています。

せっかく文化会館を建設したのだから、身近に芸術文化を鑑賞してもらおうという、市の方針により文化会館主催の事業を行っています。開館当初からは、劇団四季のミュージカル、松竹大歌舞伎、新日本フィルハーモニー交響楽団の3本の柱を年1回開催し、歌舞伎の昼公演には伊南地区中学3年生、新日本フィルの演奏会の昼公演には伊南地区小学6年生を無料招待して鑑賞教室を行い、将来ある子どもたちに生の芸術を体験してもらおう事業も行いました。この他には、さだまさし、「HIDE ALFEE」の公演の他、市民参加のオペラ「青獅子」「おしち」や第九演奏会、プロと市民と共演の市民ミュージカルなど様々な公演を開催してきました。



舞台より客席

文化会館は建設後37年が経過し、施設の老朽化がかなり進んでおりますが、今後大規模改修を行っていく予定です。



令和2年7月に赤穂公民館が文化センター北隣に新築移転され、文化会館と一体となった利用ができるようになりました。これを契機に、ますます心豊かで文化の香り高い活気に満ちた地域づくりを振興する文化の殿堂となるよう、更なる芸術文化振興を図ってまいります。

また「赤穂公民館文化団体協議会」と勤労青少年ホーム・女性ふれあい館の「利用者の会」がひとつになり「駒ヶ根文化サークル協会」を設立し、各種行事を行っています。なかでも文化祭は「すずらん文化祭」と名称を決め、赤穂公民館と文化会館の2施設を利用し大々的に開催しています。二つの施設を利用すると控室など部屋数も多く、今後は赤穂公民館と文化会館と一体となった利用が増えるの見込めます。利用については文化会館に専門技術スタッフもおりますので、お気軽に文化会館と赤穂公民館のご利用をお待ちしております。



春のすずらん公園と文化会館

令和2年7月に赤穂公民館が文化センター北隣に新築移転され、文化会館と一体となった利用が増えるの見込めます。利用については文化会館に専門技術スタッフもおりますので、お気軽に文化会館と赤穂公民館のご利用をお待ちしております。



綴帳『希望』

編集の窓

皆さんミニトマトの品種数はどの位あるかご存じですか？「日本では約200種類ほどの品種が作られて、糖度の目安は6～10度位」と言われているそうです。

6年前からミニトマト栽培を始め“目指すは糖度10度以上”と、水を極力抑えて挑戦するも、9度止まり。

今年、思い切って『糖度10度以上』と記載の品種に変え、ついに糖度計は11.8度と表示された。甘く美味しいミニトマトを栽培するには、改良された最先端品種の力を借りることも近道です。

(山岸稔員)



連絡先

- 赤穂公民館 TEL.83-4060
- 中沢公民館 TEL.83-5125
- 東伊那公民館 TEL.82-4664

編集・発行

- 編集／駒ヶ根市公民館報編集委員会
- 発行／駒ヶ根市公民館協議会
- 印刷／株式会社宮澤印刷